

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復専科教員資格、赤十字救急法指導員、NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復理論の上肢外傷について学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</li> <li>・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</li> <li>・「カラー写真で学ぶ 骨・関節の機能解剖」 医歯薬出版</li> <li>・配布プリント</li> </ul>						
《授業外における学習方法》						
<p>次回学習する該当範囲の教科書を読み込む。</p> <p>また、授業にて学習した内容は教科書および配布プリントを確認し、しっかり知識を定着させる。</p> <p>覚える範囲が広いので、まとめて復習をせず、毎回行うように学習習慣も身に付けるようにすること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
上肢外傷を学ぶにおいて解剖学の上肢をしっかり復習してください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	肩関節および鎖骨の機能解剖を理解することができる。	柔道整復学・理論 編 改訂第6版 柔道整復学・実技 編 改訂第2版 配布プリント	テキストや配布プリントを 読み込んで理解し、授業 内で学習した内容を繰り返し 復習して習得できるよう にしておく。	
		各コマに おける 授業予定	肩関節、鎖骨の機能解剖			
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折について理解することができる。	柔道整復学・理論 編 改訂第6版 柔道整復学・実技 編 改訂第3版 配布プリント	テキストや配布プリントを 読み込んで理解し、授業 内で学習した内容を繰り返し 復習して習得できるよう にしておく。	
		各コマに おける 授業予定	鎖骨骨折			
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼について理解することができる。	柔道整復学・理論 編 改訂第6版 柔道整復学・実技 編 改訂第4版 配布プリント	テキストや配布プリントを 読み込んで理解し、授業 内で学習した内容を繰り返し 復習して習得できるよう にしておく。	
		各コマに おける 授業予定	鎖骨の脱臼			
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	肩甲骨の機能解剖、肩甲骨の骨折(骨体部、上・下角、関節窩、頸部、肩峰、烏口突起)について理解することができる。	柔道整復学・理論 編 改訂第6版 柔道整復学・実技 編 改訂第5版 配布プリント	テキストや配布プリントを 読み込んで理解し、授業 内で学習した内容を繰り返し 復習して習得できるよう にしておく。	
		各コマに おける 授業予定	肩甲骨の機能解剖、肩甲骨の骨折			
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	上腕骨近位端骨折について理解することができる。	柔道整復学・理論 編 改訂第6版 柔道整復学・実技 編 改訂第6版 配布プリント	テキストや配布プリントを 読み込んで理解し、授業 内で学習した内容を繰り返し 復習して習得できるよう にしておく。	
		各コマに おける 授業予定	上腕骨近位部骨折(骨頭骨折、解剖頸骨折)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位端骨折について理解することができる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第2版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位部骨折(外科頸骨折)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位端骨折について理解することができる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第3版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位部骨折(大結節単独骨折、小結節単独骨折、近位骨端線理解)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1～7回の学習内容の確認テスト、解説を行い理解を深めることができる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第4版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	1～7回の復習、確認テスト		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について理解することができる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第5版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節脱臼(前方脱臼)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について理解することができる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第6版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節脱臼(後方、下方、上方脱臼、反復性肩関節脱臼)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱板断裂、上腕二頭筋長頭腱損傷について理解することができる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第7版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節部の軟部組織損傷(筋、腱の損傷)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ傷害について理解できるようになる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第8版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節部の軟部組織損傷(スポーツ傷害)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節不安定症について理解できるようになる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第9版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節部の軟部組織損傷(不安定症)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経障害、五十肩について理解できるようになる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第10版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節部の軟部組織損傷(末梢神経障害、その他の疾患)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1～14回の学習内容の確認テスト、解説を行い理解を深めることができる。	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編 改訂第11版 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	まとめ		